

国際化対応に関するアンケート調査

調査結果のまとめ

国際化対応委員会

近年、RoHS 指令に基づく依頼など国際化の波は徐々に我が分析業界にも押し寄せて来ております。このような状況に鑑み、国際化に対する会員各社の現状を把握すべく、また国際化対応委員会の今後の活動の貴重な資料にすべく、平成 19 年 11 月、アンケート調査を実施いたしました。調査に際し会員の皆様は多くの方々にご協力を頂きました。本誌をお借りして厚く御礼申し上げます。当委員会ではこれまで集計作業を進めてまいりましたが、このほど結果がまとまりましたのでここにご報告いたします。

I アンケート集計結果

アンケートの回収率は 46.4% で、約半数の会員の方々から回答して頂きました。

表 1 回収率

配布件数	556 件
回収件数	253 件
回収率	46.4%

II 各設問の集計結果

アンケート調査は、大別して下記の 7 項目を用意しました。各設問の集計結果を以下に示します。

- ① 国際化のために必要な情報について
- ② 国際化に対する脅威（不安）について
- ③ 海外規格を使用した業務について
- ④ 国外の環境事情の把握方法について
- ⑤ ACIL/UIIL の活動について
- ⑥ 報告書等の翻訳について
- ⑦ 国際化対応委員会について

1. 国際化のために必要な情報について

会員の皆さんが国際化ということに対し日頃どのように感じているかをお聞きしました。

設問 1.1 貴社の業務において国際化の必要性は感じていますか？

「必要性を感じている」と答えた人は 56%、「必要性を感じていない」と答えた人は 36% でした。過半数の人が何らかの形で国際化の影響を感じているようです。

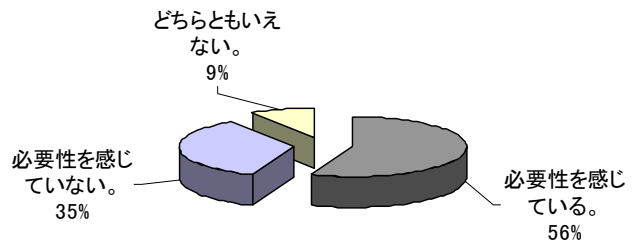


図 1 国際化の必要性

設問 1.2 前問で「必要性を感じている」とお答え頂いた方は、どのような情報を必要と感じていますか？

海外の法制度や規格などの情報を必要と感じていると答えた方が多く見られました。我が国の環境行政が海外の動向に影響されることが多々ありますが、分析業界においてもこのような事情を反映したものではないかと考えます。

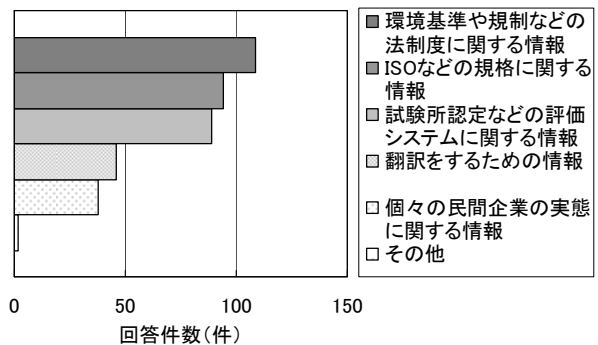


図 2 必要と思われる海外情報

国際化のために必要な情報

半数以上の人が国際化の必要性を感じていました。これらの方々は海外の法制度や規格など、環境行政の方向性が把握できるような情報を必要と感じているようです。

2. 国際化に対する脅威（不安）について

国際化を感じているとして、それが脅威かどうかをお聞きしました。

設問 2.1 国際化に対して脅威（不安）を感じていますか？

「とても感じている」人が 8%、「多少感じている」人が 47%でした。国際化の必要性を感じている人がほぼ脅威（不安）を感じているようです。

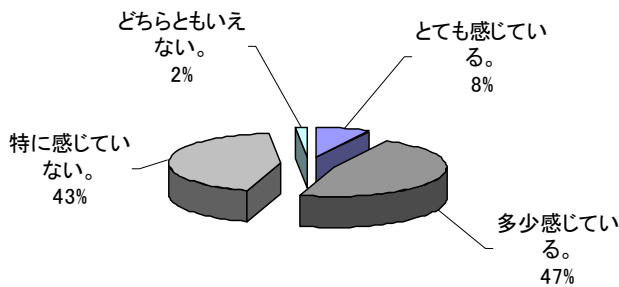


図3 脅威（不安）を感じるか否か

設問 2.2-1 前問で「とても感じている」又「多少感じている」とお答え頂いた方は、具体的にどのような点に脅威（不安）を感じていますか？

最も多い脅威は「価格破壊：82件」でした。「試験所の能力：57件」や「海外ラボの国内進出：65件」も結局は価格破壊に繋がる可能性があることから、国際化が進むと業界が脅かされるのではないかとといった不安を抱いているようです。

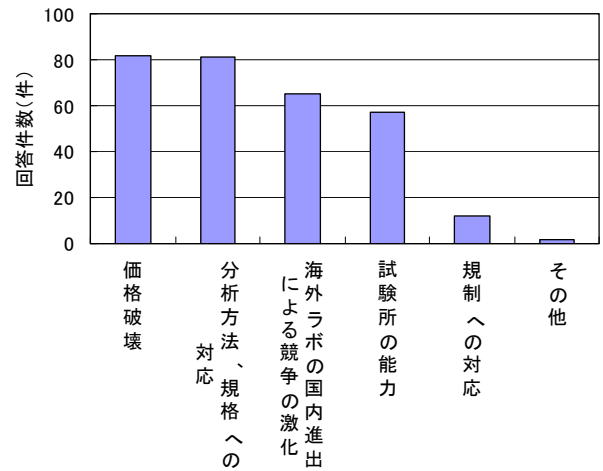


図4 脅威（不安）の中身

設問 2.2-2 前問でお答え頂いた方は、国内の分析機関に不足していると感じることはありますか？

「不足を感じることもある」と答えた人は 29%でした。具体的に何が問題かが明確ではなく、現段階では漠然と脅威を感じている人が多いようです。

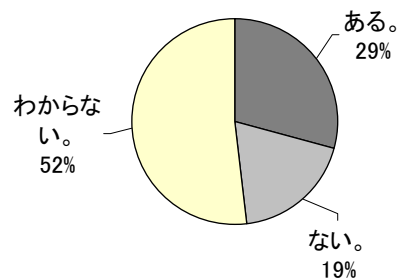


図5 国内分析機関に不足を感じたことがあるか？

なお、「不足を感じたことがある」と答えた人は、技術力、開発能力、品質保証システム、語学力などが不足と考えているようです。

国際化に対する脅威（不安）
 約過半数の人が、国際化に対して不安を抱いていました。国際化が進むと、現在我が国でも問題になるような価格破壊に晒されることを不安に感じているようです。

3. 海外規格を使用した業務について

会員の皆さんの海外業務の実態をお聞きしました。

設問 3.1 貴社において、国内外で海外規格を使用した業務を実施していますか？

回答した人のうち、約 1/4 の人（会員各社）が海外業務を実施していました。経年的な変化は分かりませんので断言できませんが、実態として徐々に海外業務が増えてきているのではないかと思います。

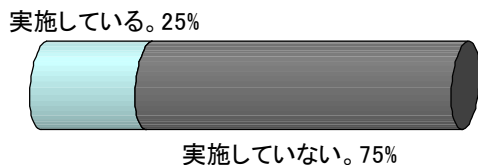


図6 海外業務の実施

設問 3.2 前問で「実施している」とお答え頂いた方にお尋ねします。

(1-1) どの国の海外業務を実施していますか？

ほとんどが EU (14 件) と米国 (13 件) でしたが、中国 (3 件) の業務も実施しているようです。その他の国の業務 (11 件) も散見されました。

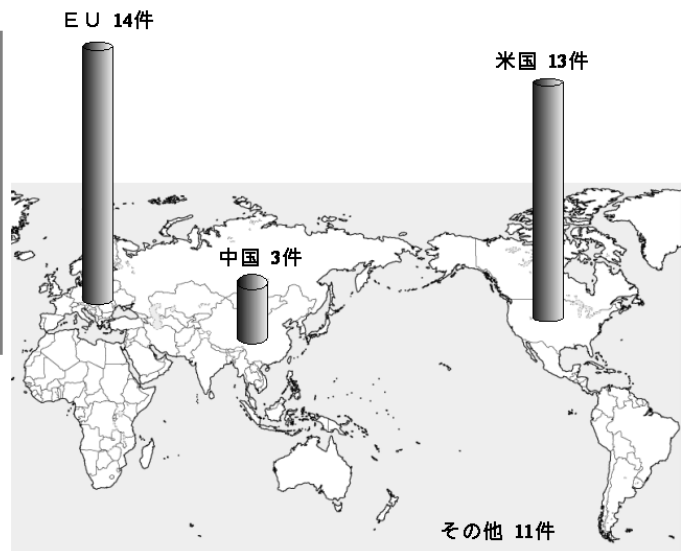


図7 海外業務の対象国

(1-2) 具体的にどのような規格を使用していますか？

前項のように海外業務のほとんどは欧米の業務であることから、EPA、ISO、RoHS、ASTM の規格による業務がほとんどでした。

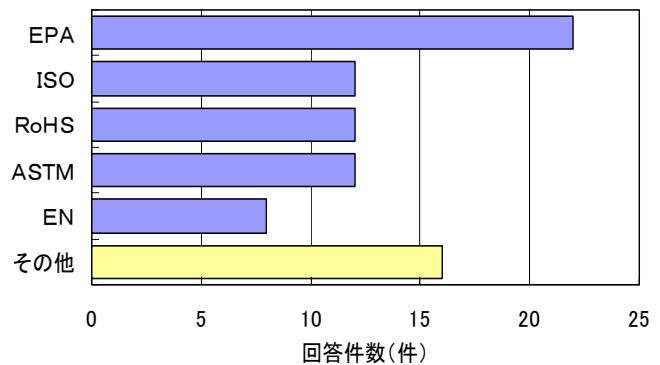


図8 使用している規格

(2) どのような業務を実施していますか？

ほぼ半数が RoHS 指令に関する業務でした。その他の業務として、重金属分析、アスベスト分析、PCB 分析を実施しています。

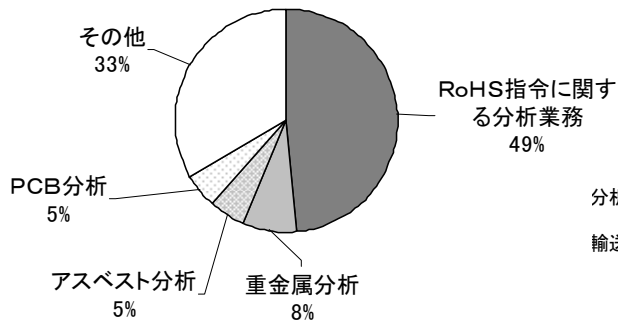


図9 実施している業務

(3) その業務はどの程度の頻度ですか？

約 1/3 が年 11 回以上の頻度でした。「年 11 回以上」とは毎月実施している業務ではないかと思えます。

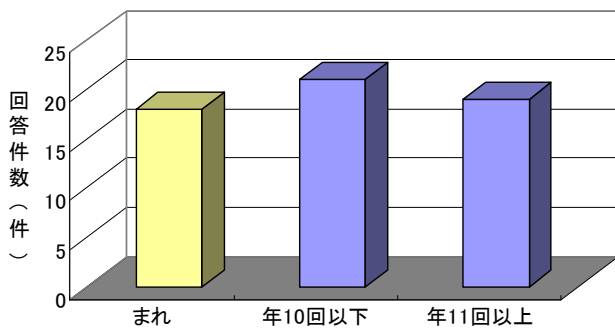


図10 業務の実施頻度

(4) 業務を実施する上で困ったことはありませんでしたか？

業務を実施する上で「困ったことがあった」と答えた人は半数弱いました。

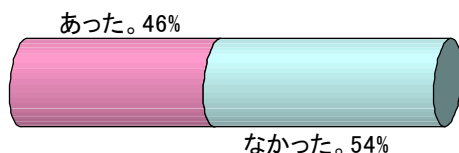


図11 困ったことの経験の有無

困ったことの内容は、図12のとおりです。英訳や分析方法、輸送など実務的なことに困ったようです。

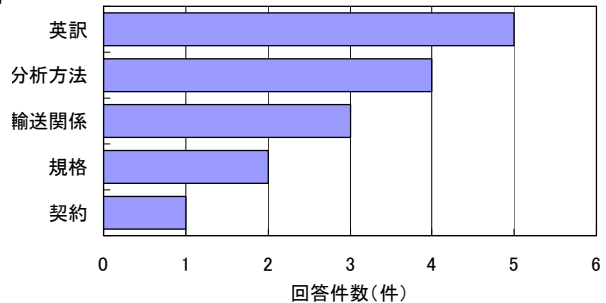


図12 困ったことの内容

設問 3.3 前問で「困ったことがあった」と答えた人は、どのようなサポートがあると良かったと感じましたか？

約 3/4 の人は規格の日本語訳や英文のフォーマットがあれば役に立つと答えていました。

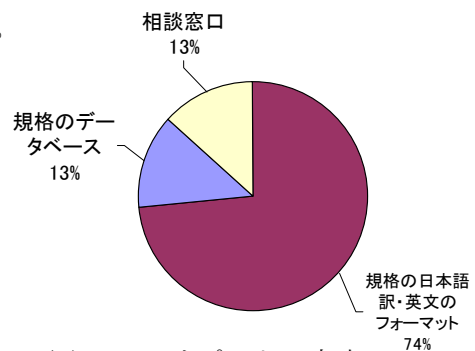


図13 サポートの内容

海外規格を使用した業務

回答して頂いた会員の 1/4 が、海外規格を用いた業務を実施していました。約半数が EU や米国の業務で、RoHS 指令や ISO などの規格を用いた業務でした。

その際、困った経験のある人が約半数いました。英訳など実務に困った経験から、規格の日本語訳や英文フォーマットなどのサポートを望む声が多く聞かれました。

4. 国外の環境事情の把握方法について

国外の環境事情をどのように把握したら良いのか、具体的な方法に踏み込んでお聞きしました。

設問 4.1 国外の環境事情に興味はありますか？

国外の環境事情に「興味がある」と答えた人は 75% でした。かなりの人が国外の環境事情に興味を持たれているようです。

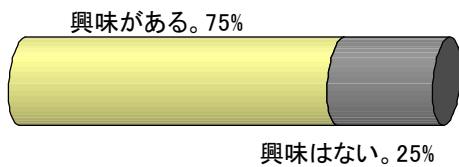


図 14 国外の環境事情について

設問 4.2 前問で「興味がある」とお答え頂いた方にお尋ねします。

(1) 興味があるとする理由は何ですか？

最も多かったのが個人的興味でした。これに対し、将来の事業展開に必要と答えた人は、まだそれほど多くはありませんでした。

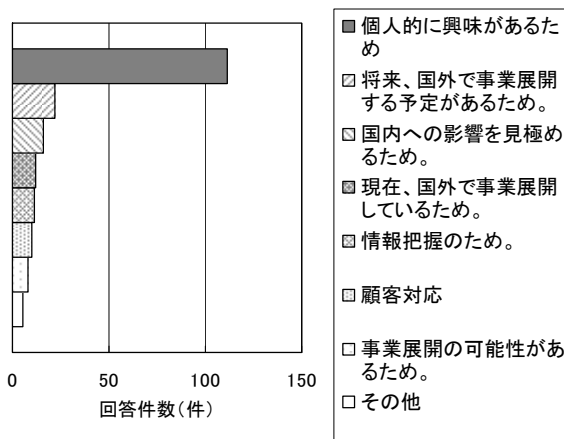


図 15 興味の中身

(2) どの国(地域)に興味がありますか？

EU、米国、中国、アジアに興味が集っていました。海外業務の実績と比較すると、これから環境業務が発生すると考えられる中国やアジアに興味集中しているようです。

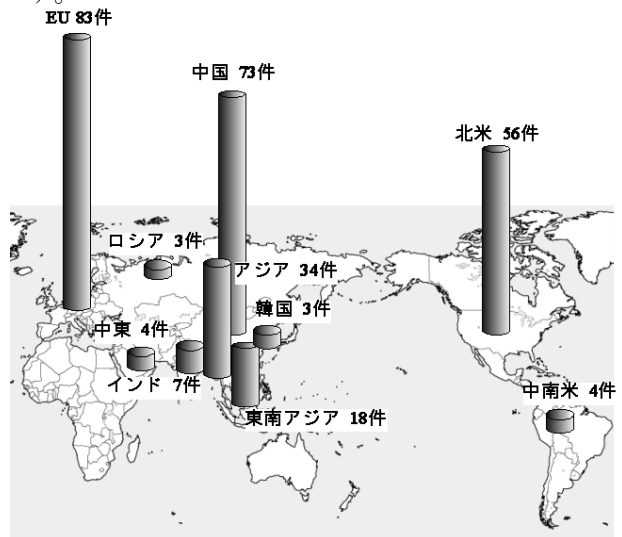


図 16 興味のある国・地域

(3) どのような情報に興味がありますか？

最も多いのは、その国の法律や動向でした。「環境実態」に興味があると答えた人が多いことを考えると、現在の環境実態を改善するため、規制が強化され、その規制強化により業務が増えるのではないかとといった点が興味の対象になっているようです。

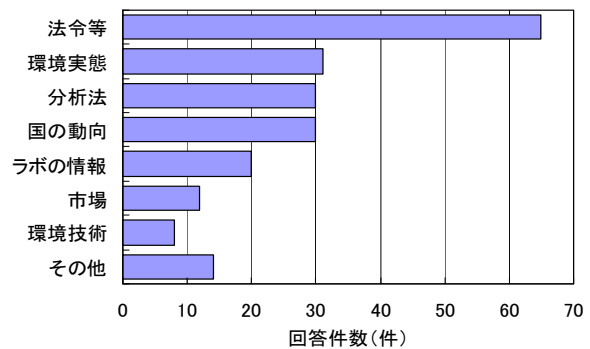


図 17 興味のある情報

(4) 情報を得るためにどのような手段を使っていますか？

近年、インターネットの普及は目覚ましいものがあります。ほとんどの人はこのネット検索によって情報を得ているようです。また、情報を探してもうまく情報が得られず、困っている人も多く見られました。

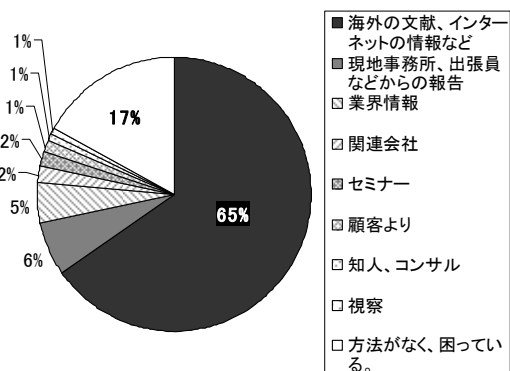


図 18 情報の入手手段

(5) 現在の手段に加え、情報を得るための手段として、どのような方法をお望みですか？

「協会の HP や機関誌に情報を掲載して欲しい」、あるいは「環境セミナーで情報を公開して欲しい」との要望が多く、当協会による情報公開に多くの期待が寄せられています。

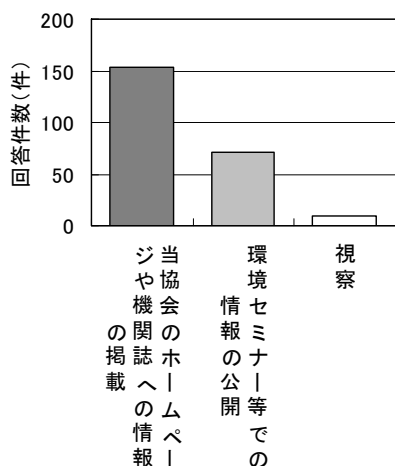


図 19 望まれる情報把握の手段

設問 4.3 前問で「視察をしたい」とお答え頂いた方にお尋ねします。

「視察をしたい」と答えた人は 10 名でしたが、それ以外の人も以下の設問に答えていました。

(1) 当協会が隔年ごとに「海外環境事情調査団」として、視察を実施していることをご存知ですか？

約 7 割近くの方がご存知でした。

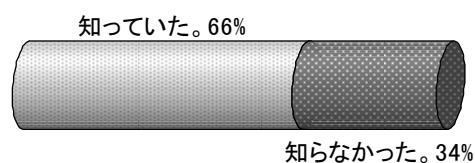


図 20 視察の認知度

(2) 視察に参加するとすれば、どの国(地域)を視察したいと考えますか？

設問 4.1 (2) の「興味のある国や地域」と同様に、中国やアジアへの視察要望が多く見られました。

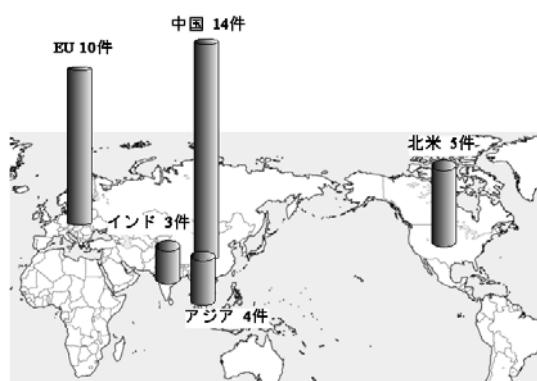


図 21 視察したい国・地域

(3) 日程は何日位が適当と考えますか？

最も多い日程は 5~7 日間でした。次いで多い日程は 4 日以内ですが、これは日本近傍の中国やアジアの視察を希望している人の答えではないかと推察します。

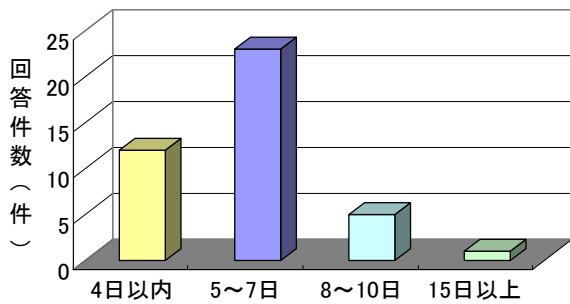


図 22 視察日数

(4) 視察のためのご予算は決められていますか？

予算が決められている会員各社は 12%で、ほとんどの会社では予算を決めていないようです。

決められている。12%

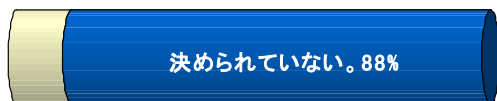


図 23 視察の予算

(5) 視察の時期としては、いつ頃が適切と考えますか？

視察の時期としては、春から秋が適切と考えている意見が多く見られました。仕事が忙しくなる年度下期を避けたいという表れではないかと考えます。

国外の環境事情の把握方法 (1)

国外の環境事情への関心は、まだまだ個人的な興味が強いという方が大半でした。特に中国やアジアの環境行政の動向に関心があるようです。

現段階では、ネットなどを利用して国外の環境事業の把握に努めていますが、当協会の機関誌等で情報が公開されることを望んでいます。

国外の環境事情の把握方法 (2)

「視察をしたい」と答えた人は僅かでしたが、大半の人は当協会が隔年で実施している「海外環境事情調査団」をご存知でした。

参加するとすれば、従来の欧米に加え、4日程度での中国やアジアの視察を望むという声が寄せられていました。

5. ACIL/UIIL の活動について

当協会では ACIL: 全米独立試験所協会と UIIL: 国際民間分析試験所連合の会員になっていますが、今後の参考としてその活動の認知度をお聞きしました。

設問 5.1 当協会が ACIL/UIIL の会員であることを知っていましたか？

「知っていた」が 40%で、約半数近くの方がご存知でした。

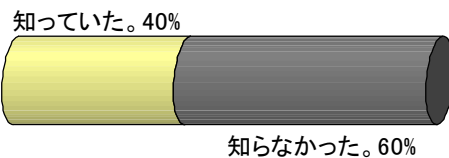


図 24 ACIL/UIIL の認知度

設問 5.2 ACIL/UIIL から得られる情報に対して期待することは何ですか？

ニューズレターの配信 (11 件) や情報の開示 (6 件) に期待が寄せられました。

ACIL や UIIL の活動状況は、なかなか分からないといったことが背景にあるものと考えられます。

ACIL/UIIL の活動

約 4 割の人が ACIL/UIIL の活動をご存知でした。これらの具体的な情報の開示が期待されていました。

6. 報告書等の翻訳について

国際化で直接問題になるのは言語の壁です。その一例として報告書の翻訳作業についてお聞きしました。

設問 6.1 顧客などから報告書の翻訳（英訳その他）を依頼され、困ったことはありますか？

約 40%の人が「翻訳の依頼に困ったことがある」と答えていました。慣れていないためか、報告書の翻訳には戸惑いがあるようです。

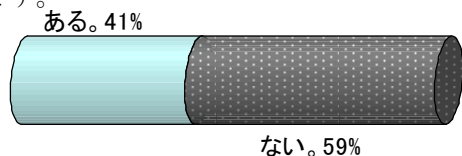


図 25 「困ったことがある」という割合

設問 6.2 前問で「困った」際、どのようにして解決しましたか？

ほとんどの人が社内で翻訳したり、業者に翻訳を依頼したりして、顧客の要望に応じていました。「断った」ケースは1件のみでした。

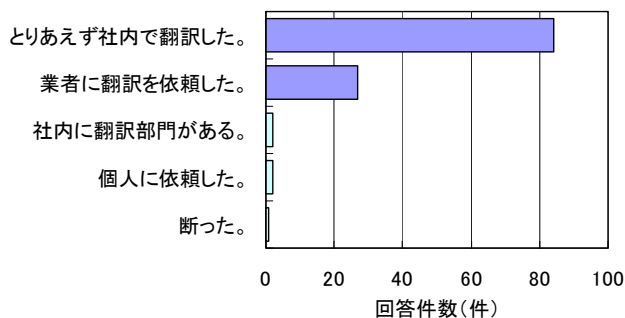


図 26 翻訳依頼の解決方法

設問 6.3 前問で「社内又は業者に委託して翻訳した」場合、困ったことはありませんでしたか？

「困難はなかった」ケースも多く見られましたが、「困った」とするケースでは、専

門用語の訳や提出様式を挙げていました。日本語の報告書に対し、「日本語を機械的に英語に直せば良い」とは考えず、「海外に通用する文章表現や様式にするにはどうしたらよいか」という点に腐心しているようです。

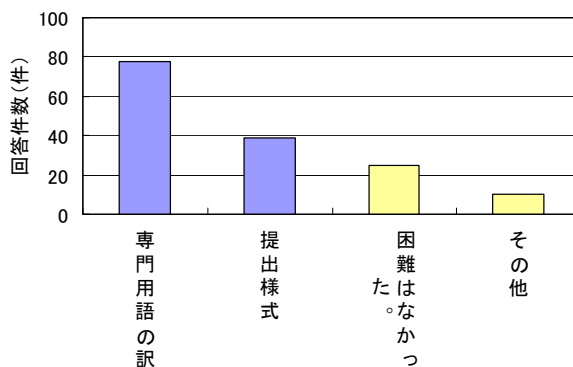


図 27 翻訳時の困難の内容

設問 6.4 英文報告書の当協会標準（参考）様式などがあつたら便利だと思いますか？

ほとんどの人は、便利だと思っていました。様式等に困った経験があるだけに、そう思う人が多かったようです。

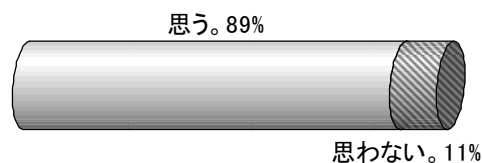


図 28 便利と思うかどうか

報告書等の翻訳

顧客から報告書の英訳を頼まれた際、4割の人が戸惑いを見せているようです。しかし、ほとんどの場合、その依頼に応じ、自社あるいは業者に依頼して翻訳していました。英文報告書の様式などがあると便利と考えているようです。

7. 国際化対応委員会について

当協会には国際化対応委員会を設置していますが、同委員会の認知度をお聞きすると共に、今後の活動の参考にしたいと考え、いろいろとお聞きしました。

設問 7.1 当協会に国際化対応委員会が設置されていることを知っていましたか？

ご存知の方は 40%を満たない状態でした。まだまだ認知度が低く、「もう少し PR をしなければ…」と考えさせられました。

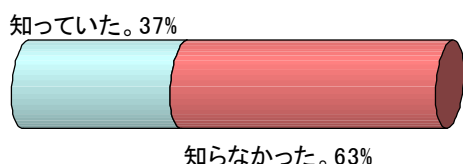


図 29 国際化対応委員会の認知度

設問 7.2 当協会の HP で公開している ISO TC146（大気）及び TC147（水質）の審議状況の翻訳をご覧になったことはありますか？

ほとんどの人は、このような ISO の審議リストを閲覧していませんでした。

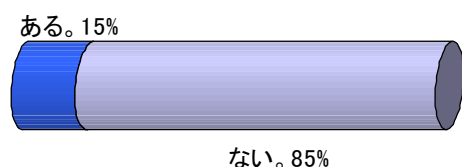


図 30 閲覧の有無

設問 7.3 前問の翻訳は、今後も協会の HP 掲載（更新）を続けた方が良いと思いますか？

ほとんどの人が閲覧していない状況で、86%もの人が今後もこのような取り組みを続けた方が良いと答えていました。翻訳リストの存在をもっと PR すれば、より多くの

方々に広く活用して頂けるのではないかと考えます。

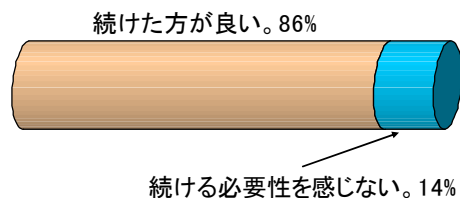


図 31 継続の必要性

設問 7.4 前問の問いに対して

「続けた方が良い」とする理由は何ですか？ また、「続ける必要性を感じない」とする理由は何ですか？

半数の人は規格の動向や情報の先取りができることを理由に「続けた方が良い」と考えているようです。意外だったのは、業務上活用できると考えている人が 1/3 もいたことです。これを励みにこれからも継続に向け努力します。

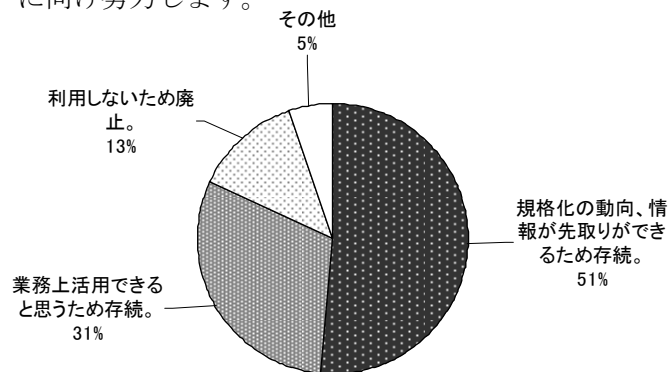


図 32 継続等の理由

設問 7.5 当委員会内で専門的な用語（計量証明書、環境計量士など）の英訳を検討していますが、その必要性を感じますか？

報告書の翻訳を依頼された際、多くの人が専門用語の訳に困っていたことから、当委員会への専門用語の英訳の期待が多く寄せられました。

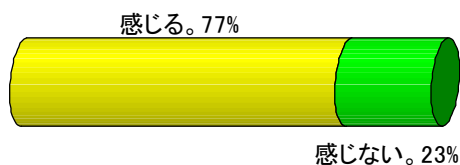


図 33 専門用語英訳の必要性

国際化対応委員会について

国際化対応委員会が設置されていることは約 4 割近くの方がご存知でしたが、残念ながらその活動はあまり知られていないようです。

しかし、現在進めている ISO の審議状況や専門用語の英訳など、多くの人から支援する声が寄せられました。

III むすび

冒頭にも述べましたが、本アンケート調査は、①会員各社の国際化に対する現状の把握と、②国際化対応委員会の今後の活動の資料に供するために実施しました。

我々分析業界における海外業務は、回答頂いた会員の 25%が実施していますが、まだそれほど多くはありません。業務は RoHS 指令関係が多く、EU や米国の業務がほとんどでした。これら業務で困ったことは、英訳や分析方法、輸送など実務的なことでした。

また、国内業務ではあるものの、顧客から報告書の英訳を依頼されるケースも多く見られました。取り敢えず自社で翻訳したり、業者に頼んで翻訳していますが、英文様式などが閲覧できると便利であると感じた人が多くいました。

一方、国際化に対して必要性を感じている人は過半数に達していました。多くの人

は価格破壊などを心配していましたが、まだ現実的な影響はないようです。それよりも外国の環境事情に関心が集まっていました。特に中国やアジアなど、現在環境問題を抱えている国々に関心が高く、その情報を当協会の HP や機関誌を通じて教えて欲しいとする要望が多く寄せられました。視察では、これまでの欧米に加え、中国やアジアへの視察も興味があるようです。

国際化対応委員会の存在は 40%の方がご存知でしたが、残念ながら PR 不足のせいで、その活動についてはよく知られていませんでした。ただし、ISO の審議リストや専門用語の翻訳などは今後も継続すべきという心強いご支援を頂きました。

このアンケートで、具体的な要望をまとめると次のような項目を挙げることができます。

①情報に関するもの

- ・ 海外の環境行政の動向に関する情報
- ・ 海外の環境事情に関する情報
- ・ ACIL/UIIL の動向

②英文翻訳に関するもの

- ・ 英文報告書のフォーマット
- ・ 専門用語の英訳

③データベースに関するもの

- ・ ISO 規格の審議状況
- ・ 規格の日本語訳

国際化対応委員会としては、今後、これらの要望を踏まえ、実施可能なことから手を付けて行きたいと考えております。今後ともご支援のほど、よろしくお願い致します。

注) 分かり易くするため、設問の表現や順序は、アンケート調査時のものと変えている箇所があります。